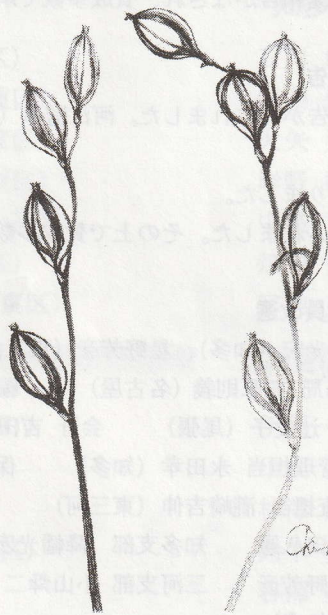


協議会ニュース 135号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2012. 5



ムヨウラン

杉澤 周子 (奥三河支部)

総会レポート

会長挨拶

講演レポート

東三河 30 周年事業

支部総会レポート

支部総会レポート

観察会のヒント

私の活動紹介

理事会報告(3/20)

各支部別新会員紹介

行事案内・編集部

名古屋支部 石原 則義………P2

大谷 敏和………P3

尾張支部/久米 未祐………P4

東三河支部 星野 芳彦………P5

三河支部 星野 芳彦/西三河支部 三田 孝 ……P6

知多支部 南川 陸夫 名古屋支部 滝田 久憲………P7

西三河支部 河江 喜久代 ……P8

名古屋支部 妹尾 瑤子 ……P9

名古屋支部/石原 則義… ……P10

尾張支部 久米 未祐………P11

………P12

平成24年度通常総会

日 時：平成24年3月20日(火・祝) 13:00～14:30

場 所：名古屋国際センター

●開会 平成24年度通常総会は、近藤理事の司会により進行しました。はじめに松尾会長の挨拶、続いて、総会の議長に降幡副会長を選出し、議案の審議をすすめました。

●第1号議案 平成23年度事業報告

浅井事務局長から総会資料に基づき事業報告がなされ、賛成多数で承認されました。

●第2号議案 平成23年度決算・監査報告

石田会計から総会資料に基づき決算報告がなされました。河江監事(東三河)より適正に処理されているとの監査報告がありました。

機関紙作成費の件で会員より質問がありました。

質問に対して石田会計による説明がなされました。その上で賛成多数で承認されました。

●第3号議案 本年度は2年に1回の役員改選

会長 大谷敏和(尾張) 副会長 降幡光宏(知多)、星野芳彦(東三河)

事務局長 浅井聡司(名古屋) 事務局 石原則義(名古屋) 編集担当 近藤記巳子(名古屋)

編集担当 久米未祐(尾張) 会計 辻愛子(尾張) 会計 吉田雅紀(尾張)

名簿管理 森田琢磨(知多) HP管理担当 永田孝(知多) 保険担当 布目均(名古屋)

広報担当 石川正雄(西三河) 調査担当 瀧崎吉伸(東三河) 理事 松尾初(尾張)

尾張支部 齋竹善行 名古屋支部 滝田久憲 知多支部 降幡光宏

西三河支部 三田孝 東三河支部 星野芳彦 三河支部 小山舜二

監事 河江喜久代(西三河)、榊原靖(知多)

退任 石田晴子(名古屋支部)

新任 久米未祐(尾張支部)

賛成多数で承認されました。

新任の大谷会長の挨拶および各理事から担当について自己紹介がありました。

●第4号議案 平成24年度事業計画

浅井事務局長から総会資料に基づき事業計画案が提案され、賛成多数で承認されました。

●第5号議案 平成24年度予算案

石田会計から総会資料に基づき予算案が提案され、賛成多数で承認されました。

●閉会 《総会終了後講演会開催》

講演会 「漂着物の観察から自然科学へ」

長崎大学教育学部教授 中西弘樹 氏

※総会終了後、有志による懇親会がおこなわれました。

※総会資料については、後日改訂版が送付されました。

(記録：石原)

平成 24 年度

年度始めにあたって = 会長挨拶 =

愛知県自然観察指導員協議会 会長 大谷 敏和



協議会 30 年の歴史を振り返って

大きな事件・事故をきっかけに社会は大きく変わります。「過去にどんな事件・事故があってどう対処していったか」を学ぶことによって現在の姿が理解できます。昨年東北に歴史に残る大きな地震も例外ではありません。被害にあわれた方や関係者は想像を絶するつらい思いをされたことでしょう。でもあのような困難を乗り越え未来にむかってたくましく生きていく姿をみると日本人の宝である「絆」が過去から引き継がれていることを多くの人が再認識しました。

昨年協議会設立 30 周年記念行事が開催されました。日本の自然保護の歴史と協議会 30 周年の歴史を重ねてみました。日本は昭和 3～40 年代に高度成長があり、豊かな生活を手に入れましたが自然環境を壊したり汚したりすることによって、病気になったり、美しい自然環境がなくなってはじめて自然の大切さを知りました。昭和 50 年代は、身の周りの自然の中で遊ぶ子どもが少なくなり環境教育の必要性が言われるようになったもののまだまだ自然の楽しさや大切さを伝えていく指導者が少なく協議会の中でも環境教育の必要性がさげばれ有志で研修会を開いたことを覚えています。10 周年では「子どもと身近な自然」の講演がありました。車社会になり、都会から離れ自然の残る場所でオートキャンプをする時代でもありました。愛知万博の時には、「里山」に多くの人の目が向けられるようになり、学校では総合学習で地域の自然を学ぶ学校も多く見られ、学校へお手伝いによく指導員もたくさんいました。自然観察会でも、生活と関わった内容の自然観察会も多くなりました。設立 20 周年記念事業では、多くの人を自然に目を向けてもらおうと「自然の楽しさを 自然の大切さを みんなに」をテーマに事業展開しました。2003 年 9 月に行った外来種問題に関心を持っている方が多く一般にも呼びかけた講演会では追加の椅子を出すという大盛況でありました。荒れた森を再生したり、湿地の保全活動をする指導員の体験談の研修会も開かれました。

2010 年愛知県で cop10 が開催され生物多様性の問題がテレビなどで紹介され、たくさんの人が自然の大切さを知るよい機会になりました。我が協議会も白鳥会場に 2 週間ブースを設け多くの会員の協力で来訪者と接しました。ブースのテーマは「残したい景観」自分たちのフィールドを新たな視点で見直すことが出来ました。「自然のすばらしさ」から「〇〇の自然のすばらしさ」を多くの人に伝える大切さを学びました。

愛知県自然観察指導員連絡協議会は、そこにすむ人たちが脈々と守ってきたフィールドの自然をよく知っている指導員の集まりであります。行事を通して愛知県の自然のすばらしさを多くの人に発信できたらと思います。ぜひ皆様の力を貸してください。

長崎大学教育学部生物学教室 中西弘樹先生

記念講演「漂着物の観察から自然科学へ 漂着物学への招待」要旨

レポート 尾張支部 久米 未祐

平成 24 年 3 月 20 日、長崎大学教育学部生物学教室の中西弘樹先生を講師にお迎えして、「漂着物の観察から自然科学へ 漂着物学への招待」という演題で講演していただきました。主な内容は以下のとおりです。

1) 漂流、漂着物を調べる

四方を海に囲まれている日本の海岸には、昔から椰子の実や貝殻などの自然物からごみなどの人工物まで、さまざまなものが流れ着きます。

それらを調べることで海流や生物の分布、生態などを知ることができます。

2) 動物の漂着を調べる

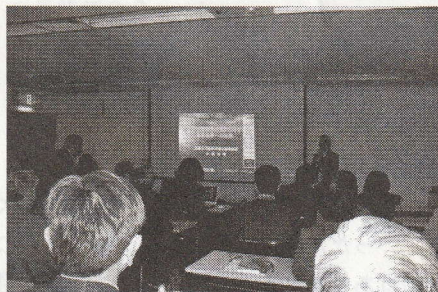
海を浮遊する貝類やウミガメなどの海産動物も海岸に漂着します。体長 5 ミリ程度のクリイロカメガイが長崎県の湾の一部を埋め尽くすほど見つかったこともありました。

美しい紫色の貝殻を持つフリガイは泡（浮囊）により海面を漂流しています。この貝は、同じ浮遊動物であるギンカクラゲなどを捕食しており、浮遊する生物同士で生態系をつくっていることがわかります。

3) 植物の漂着を調べる

陸上植物の本体や果実、種子、海草や海藻も漂着します。ニッパヤシ、モダマなどの漂着果実については、江戸時代の文献にも記載があります。

この 40 年間に発見した漂着果実と種子の傾向を見ると、開発によるマングローブ林の減少や地球温暖化による海岸浸食など、地球規模の環境問題と関係があるようにも思われます。



▲講演会場の様子

4) 人工物（ごみ）の漂着を調べる

人工物（ごみ）も大量に漂着します。軽くて水に浮きやすく、分解されにくいプラスチック製品が特に多く見つかります。

プラスチックごみの漂流は、誤飲や体に絡まるなどして、野生生物を傷つけたり命を奪ったりする原因にもなっています。

5) 漂着物を教材とした教育

海岸で漂着物を拾い集めるビーチコーミングは、いつでも誰でも、気軽に実施することができます。

漂着物は、生態学や環境科学的な面だけでなく、考古学や民族学、文学芸術など幅広い世界につながっています。

興味をもたれた方は、是非、漂着物学の世界へ足を踏み入れてみてください。

講演にあたり会場では、漂着果実などの展示も行われました。

講演後の質疑応答では、実際に海岸で漂着物を集めている会員などから質問がありました。

創立30周年記念行事 シンポジウム 東三河の生物多様性を学ぶ

東三河支部(NPO 法人東三河自然観察会) 星野芳彦

去る2012年1月21日(土) 13時～15時 豊橋市中心部のカリオンビルで当会の創立30周年記念行事が開催されました。参加者は一般120名、会員56名、合計176名で立見も出るほどの盛況ぶりでした。6階の多目的ホールロビーでは会員の撮影した写真展も同時開催。

参加者にはもれなく記念誌として制作した「身近な生きもの観察ブック」を贈呈しました。執筆は会員14名が担当し、東三河でよく見られる動植物340種を取り上げ、写真と記事で「生きものに親しむための手引書(A5判上質紙120頁)」を目指したものです。

シンポジウムの第1部は本会のいがりまさし会員とYancyさんのデュオユニットThe1212コンサート『ネイチャーフォーク』で幕が開きました。そして、第2部は愛知教育大学の芹沢俊介特別教授が「東三河の生物多様性」を演題に基調講演を行いました。東三河の生物多様性を脅かす要因についての詳しい解説で、改めて生物多様性の大切さを実感しました。

その後、シンポジウム「自然観察会活動における生物多様性～活動報告」と題して寺本会員のコーディネートで、星野芳彦、中島芳彦、岩瀬直司各会員が昨年担当した葦毛湿原、田原権現の森、吉祥山に関してそれぞれ報告し、芹沢特別教授からのコメントや、会場の参加者との活発な質疑応答・意見交換を行いました。今後の観察会への新しい一歩につながる貴重なイベントになったと思います。

↓The1212 コンサート



↓芹沢特別教授による基調講演



↓満員のシンポジウム会場



↓シンポジウムの報告者



オールカラーの自然ガイド⇒

『身近な生きもの観察ブック』



東三河支部総会

東三河支部 星野芳彦

創立 30 周年記念行事も無事に終え、例年より 3 週間遅れで 2 月 25 日(土)通常総会が豊橋市豊城地区市民館で行われました。

2011 年度の事業実施報告に続き、今年度の事業計画において主な行事である、地域自然観察会が次のように決まりました。詳細は NPO 法人東三河自然観察会の HP をご覧ください。

4 月 1 日(日) さがらの森(蒲郡市) 9 時半から正午

5 月 6 日(日) 仁崎海岸(田原市)

9 月 9 日(日) うでこき山麓 重川池(新城市)

9 月 29 日(土) 葦毛湿原(豊橋市) 7 時半から 20 時(あいちの自然観察会)

一方、毎月第 2 日曜に実施してきた定例観察会については、当会主催の観察会以外の委託業務が増えて特定会員への負担が増えたなどの問題を指摘する声がありました。協議の結果、定例観察会の持ち方やあり方を考え、会員自身のスキルアップの機会とする発展的な考え方で、今年度は休止することになりました。観察会の企画・運営に当たっても「充電期間」が必要なのだと感じました。

今年度の 1 回目の地域観察会はすでに終わりましたが、昨年の指導員研修会に参加したお二人の新人指導員がデビューを果たしました。タブレット PC を使った斬新なインタープリテーションはさすが！ 新たな道具、アイデアとそして何よりもフレッシュなメンバーが、31 年目を迎えた当会に春風とともにさわやかな雰囲気を選んできてくれたようです。

西三河支部総会

西三河支部 三田 孝

日時：平成 24 年 2 月 4 日(土) 14:00～17:00

場所：岡崎竜美丘会館

平成 24 年度の支部総会は会員 18 名の参加で開かれました。平成 23 年度行事報告、会計報告のあと、平成 23 年度役員の選出、活動計画の検討を行いました。

新年度の観察会については、支部定例観察会(同一場所で行う観察会)は設定せず、西三河各地を巡る支部主催観察会を 7 回企画しました。4 月和紙のふるさと(豊田)、6 月桜井寺周辺(岡崎)、7 月タカドヤ湿地(豊田)、8 月逢妻女川(豊田)、9 月扇子山(岡崎)、11 月平原の滝(西尾)、1 月東公園(岡崎)です。

会員が独自に主催する地域定例観察会は次の 6 ケ所で行われます。くらがり溪谷自然観察会、おかざき自然体験の森自然観察会、おかざき自然体験の森植物観察会、岡崎中央総合公園自然観察の里、平戸橋、西尾いきものふれあいの里の観察会です。いずれもほぼ毎月定例で開催されるものです。会員研修会は 10 月 20 日におかざき自然体験の森にて、自然のものをを使ったクラフトを予定しています。講師は会員の河江さんです。

今年は支部創立 30 周年の年にあたり、この 10 年の活動を記録する記念誌を作成する予定です。

なお、観察会の詳細はホームページ(www.nishimikawa.com)をご覧ください。

西三河支部 平成 24 年度役員

会長：三田 副会長：奥居、馬場 事務局：深見 広報：石川、古間木
監査：山原 幹事：石黒・水谷・山下・河江・松山・山本博

知多支部総会

知多支部 南川 陸夫

日時：平成24年2月12日（日） 9:30～11:50 場所：阿久比町勤労文化会館

平成24年度の知多支部総会は、会員総数108名内、出席者40名（欠席委任状48名）で開催された。代表の挨拶の後、出席会員の自己紹介をして議事に入った。2011年度の知多支部の全体事業報告、知多半島10市町のブロックごとの報告、県協議会に關した事業報告などが年報を見ながら各担当者から行なわれた。続いて役員会報告、会計報告、役員や係りの分担、次年度の役員、事業計画、会則の一部改正が提案され承認された。



本年度は知多支部発足30周年に当たり、30周年記念行事、知多市半島各市町の9ブロックの観察会の充実、3調査活動を推進し、諸行事を安全で足跡の残る1年にすることを確認して終了した。

知多支部平成24年度役員

代表 降幡 光宏

副代表 榊原 正躬（年報、Web担当）・榊原 靖（研修 担当）・南川 陸夫（庶務）

会計 牧野 靖子

会計監査：山田絹子・薦谷ふみ子

調査担当 森田 琢磨（ベンケイガニ）・平田 秀彦（ヒメボタル）・沖田 正和・大野 耕也（タケ）

名古屋支部総会

名古屋支部 滝田 久憲

平成24年度名古屋支部総会が2月26日（日）午後2時から、なごやボランティア・NPOセンター第1研修室において会員33名（欠席委任状37名）の参加で開催されました。支部長のあいさつの後、萩原会員を議長に選出し議事が進められました。最初に平成23年度の事業報告をし、ポストCOP10を意識して実施された自然観察会を始め、いくつかの行事が報告されました。続いて会計報告では支部設立30周年事業の積立金が50万円になったことなどが報告され、いずれも了承されました。また今年度は役員の改選期ではありませんが、現役員の紹介がありました。次に平成24年度の事業計画、さらにそれを実施するための事業予算が議論され了承されました。特に今年度は30周年事業実施されることから、これまでの実行委員会で決められた行事の内容などが紹介されました。

総会終了後、名古屋昆虫同好会の矢崎充彦さんに、昆虫にまつわる講演をして頂きました。矢崎さんはカメムシの専門家で、ご自身が撮影された貴重な写真を使ってカメムシの生態に関するお話がありました。講演終了後には茶話会を催し、会員同士の交流を図りました。

全ての行事が終わった後、場所を変えて懇親会を開きました。

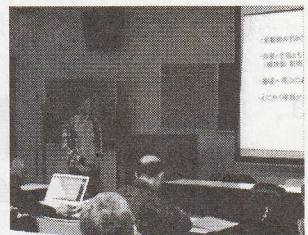
名古屋支部 平成24年度役員

支部長 滝田 久憲

副支部長 石原 則義、大澤 淳二、近藤 記巳子、高松 一史、滝川 正子
布目 均、萩原 育男、巾 賢治、堀田 守

事務局長 佐藤 国彦

会 計 中西 偶夫





自然観察のヒント

アオツヅラフジの籠

西三河支部 河江 喜久代

籠の材料になる蔓はいろいろあります。クズ・フジ・アケビ・ムベ・ヤマブドウ・スイカズラ・アオツヅラフジ、そして蔓ではありませんが、ヤナギは昔から柳行李の材料に使用されてきました。アケビ籠・ヤマブドウの籠も有名です。

アオツヅラフジは地面を這って延びる蔓はもちろん、木にからまる蔓もとてもしなやかです。蔓は採集してから、しっかり乾燥させます。それを1～5日ほど様子を見ながら水につけて戻して編み材とします。ざる編みの基本を知らなくても編める、乱れ編みで籠を作ってみました。

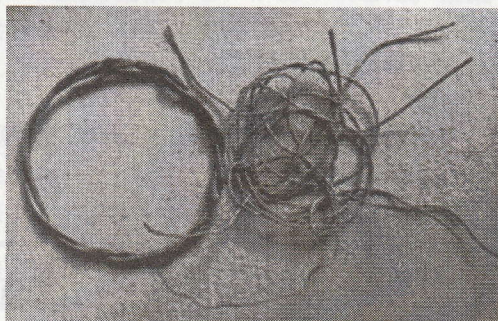
～アオツヅラフジの籠～

<作り方>

- 1、まず太目の蔓で作りたい籠の大きさに輪を作ります。その輪に蔓を続けて巻きながら二重にします。
- 2、細めの蔓で好きなように絡めながら、1で作った輪ぐらいの大きさに編みます。このとき編み始めの蔓を長めに残しておきます。
- 3、1で作った輪に2を載せ、中側を手で少し押しして深さを出します。長めに残しておいた蔓で輪に巻きつけバランスよく編みこみます。
- 4、編んで行くうちにどうしてもケバが出ますので、半乾きのうちにコンロの火であぶって仕上げます。

<ポイント>

- *乾燥した蔓を速く戻したいときは、熱めの湯に半日ほどつけると戻ります。
- *野性味がなくなるかも知れませんが蔓を長めに水につけて、皮をむいて編むとしっかりと整った籠が作れます。



▲左：太めの蔓で希望のサイズの輪を作る



▲完成

私の活動紹介



1. はじめに

昭和48年、夫の勤め先である名古屋に来ましたが、友人もいず悶々としている時、名古屋市が河川汚染調査モニターを募集しており早速応募しました。月に一度担当河川の濁度・COD・指標生物等の生息状況を調査し報告します。研修会のおり、堀田 守会員に会い自然観察指導員の布目 均会員を紹介いただき、明德緑地の自然観察会を企画、最初は年4回、その後毎月になり現在にいたっています。布目 均会員の説明が新鮮で毎回は楽しみでした。途中で挫折しましたが、ホームページを立ち上げ、毎回参加者の集合写真も載せて、自然観察会の報告をしました。

2. 自然観察指導員資格取得

指導員資格取得を進めてくださる方の言葉に押され、挑戦、合格（参加者はみな合格です）。この資格取得がその後の活動の原点になったように思います。自信もなく、まして指導員の腕章など家にしまいこみ、あちこちの観察会に参加しました。観察地の生態系の特色の面白さ、指導員の方の説明に楽しさが募りました。虫えい（虫こぶ）の多彩さ、オトシブミを作る昆虫の技術の巧みさ、冬芽の面白さなど生き物の生き残るための知恵に脱帽、新鮮な驚きでした。

3. 環境サポーター

自然観察指導員の資格を持っていたおかげで名古屋市の環境サポーター事業に登録でき、保育園・幼稚園に初めて出かけました。大人相手と違って言葉で説明することの不自由さを味わい、紙芝居を作ったり、絵を多種類描き組み合

名古屋支部 妹尾 瑤子

わせてパネルシアターを利用してお話を作ったりあれやこれや知恵を絞って奮闘しています。ドングリペンダント作り、ダンゴムシレース、ゴミと生き物、園庭での生き物探し、センダングサダーツなどをテーマに、子供たちの開けっ広げの反応に励まされつつ回を重ねています。

4. エコライフ 21

戦後すぐに発足した大学女性協会、その愛知支部の環境部会である「エコライフ 21」も20年以上がたち、現在会の代表を務めています。私の専門は「水の汚染と浄化」ですが、もっと幅広く環境をとらえ発信したいとの思いから、ごみ・リサイクル・農業等を切り口に学習してきました。ここ数年は「食糧の安全と供給」をテーマにしています。COP3京都會議ではワークショップを、高校の文化祭に出前授業を、環境創造センターと共同講演会の開催などをしてきました。最近はワールドコラボフェスタや、なごや環境大学が主な発信の場です。今年度は無味無臭の放射線の怖さを改めて感じ、「放射線と健康」をテーマに考えています。

5. これから

子供たちが身近に接する生き物の種類は本当に限られてしまっています。しかし雑木林の中に入るとまだまだ生き物は元気で頑張っています。自然の持つ神秘・不思議さを、また人間にとってもどれほど大切なのかを虫たちの生き生きした姿を通して子供たちに伝えたいと思います。

第1回理事会

日 時：平成 24 年 3 月 20 日(火・祝)
10:00~12:00

場 所：名古屋国際センター

出席者：松尾、降幡、大谷、浅井、石原、近藤、
石田、吉田、森田、永田、布目、石川、
瀧崎、齋竹、滝田、三田、星野、久米

議案 1

平成23年度事業報告の確認(後日改訂版送付)
平成23年度収支決算、平成24年度予算案の検討
および確認

議案 2

役員改選の件

- ・会長 大谷敏和 副会長 星野芳彦 他
は留任
- ・退任 石田晴子 新任 久米未祐

議題 3

平成 24 年度事業案の検討および確認

- ・あいちの観察会
- ・研修会
- ・フォローアップ研修会
- ・第一候補日 9 月 22, 23 日
第二候補日 10 月 7, 8 日
場所 未定
内容 水生生物について
- ・講演会 演題「漂着物の観察から自然科学へ」
長崎大学教育学部教授 漂着物学会会長
中西弘樹氏 14:30~
名古屋国際センター(3F 第二研修室)
- ・協議会の日 11 月 23 日(金・祝) 9:30~
協議会研修観察会(身近な自然)
場所 未定
担当 知多支部

- ・タケの分布調査に向けての研修会
5 月 13 日(日) 10:00~12:00
平和公園(名古屋市)

- ・「国連持続可能な開発のための教育」E S D
の最終年会合 2014
愛知県名古屋市誘致決定支援実行委員会への
参加(9月に設立予定)

- ・機関誌「協議会ニュース」

発行 3 月 5 月 8 月 12 月

- ・理事会 開催日の確認

第1回 3 月 20 日(火・祝) 10:00~

名古屋国際センター 総会の議案書

第2回 5 月 5 日(土・祝) 13:30~

名古屋 支部担当

議案：タケの分布調査、パンフレット

第3回 7 月 16 日(月・祝) 13:30~

西三河支部担当

議案：フォローアップ研修会

第4回 9 月 23 日(日) or 10 月 8 日(月・祝)
13:30~

尾張支部担当

議案：E S D 支援実行委員会

第5回 2 月 11 日(月・祝) 13:30~

名古屋支部担当

議案：会計決算 来年度の事業計画

(記 録：石原)

新指導員紹介



昨秋以降、愛知県自然観察指導員連絡協議会に加入された新会員の方々を、所属支部別にご紹介します。

5月から始まる各支部の研修に参加して自然観察に関する知識や技術のスキルアップをはかりながら、さまざまな人との出会いを楽しみましょう。

名古屋支部

浅井 昭枝 (名古屋市南区)
石樽 純子 (名古屋市千種区)
高木 和彦 (名古屋市名東区)
中村 恵子 (名古屋市名東区)
中村 鎮雄 (名古屋市守山区)
林 さよ子 (名古屋市中区)
水谷 由紀子 (名古屋市名東区)

尾張支部

石浜 喜久代 (海部郡蟹江町)
加地 浩 (岐阜県恵那市)
小木曾 三廣 (春日井市)
楠本 光子 (名古屋市守山区)
元田 寛 (春日井市)
酒井 雅章 (名古屋市千種区)
高間 靖治 (岐阜県可児市)
出口 慎治 (尾張旭市)
馬場 信忠 (清須市)
藤田 昌大 (春日井市)
増山 正彦 (名古屋市名東区)
松山 國臣 (愛知郡東郷町)
渡辺 弘三 (春日井市)

知多支部

石川 由弘 (半田市)
伊藤 伸子 (知多郡武豊町)
大矢 晃 (名古屋市瑞穂区)
岸野 靖彦 (知多郡阿久比町)
中尾 文香 (岡崎市)
畑中 美紀 (知多郡武豊町)
宮内 文明 (知多郡阿久比町)

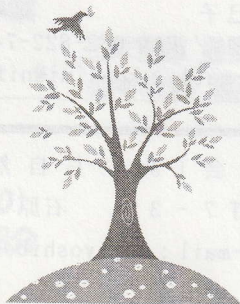
西三河支部

伊藤 千代子 (豊田市)
小山 慎太郎 (豊田市)
杉澤 周子 (豊田市)
鈴木 寛之 (みよし市)
谷澤 典夫 (刈谷市)

東三河支部

尾崎 敬代 (豊橋市)
峯村 静江 (豊橋市)
森 拓矢 (豊川市)

(作成：編集部)





<< 行事案内 >>



■研修会

5月26/27日 (土・日) 一泊二日	大台ヶ原の自然を訪ねて(三重県大台町・和歌山県上北山村) 東海市大池公園集合 詳細は後日連絡 知多支部担当
7月8日(日) 10:00~15:00	石仏の里で動植物の研修 (長野県大山田神社・入登山) 下条ユースホステル(村上宅) 奥三河支部担当
9月17日 (月・休) 9:00~14:00	キノコ観察 (春日井市・春日井少年自然の家周辺) 春日井少年自然の家だい3駐車場 尾張支部担当
9月30日(日) ①8:00 ②9:30	秋の山野草とエンシュウツリフネソウの観察(北設楽郡豊根村・茶臼山) ①8:00 地下鉄本郷駅 ②9:30 ドングリの湯(稲武町) 名古屋支部担当
10月20日(日) 13:30~15:30	自然のものをを使ったクラフト作り (岡崎市・おかざき自然体験の森) おかざき自然体験の森管理棟集合 西三河支部担当
11月4日(日)	愛知と静岡の県境の自然 詳細は後日連絡(次号掲載予定) 東三河支部担当

編集部から

- 「協議会ニュース」の発送担当の岩沙雅代会員が前号で降板。長年に渡って担当いただき感謝いたします。ありがとうございました。
- 今号より表紙イラストを、杉澤周子会員(奥三河支部)が担当。昨年指導員登録され当会に加入の新指導員です。乞うご期待!
- 「自然観察のヒント」は、手先の器用さと柔軟な発想から生み出されたクラフトの数々を作成法やエピソードと共にシリーズで紹介します。初回は「籠」がテーマ。次々と登場する、河江喜久代会員(西三河支部)の文と作品をお楽しみに。
- 編集スタッフとして久米未祐会員(尾張支部)が新たに加わりました。併せて理事としての活躍も期待します。

編集スタッフ

岡田 雅子 久米未祐
近藤 記巳子 新山 雅一
山口 健
発送スタッフ
横井 邦子

「協議会ニュース」編集部

〒457-0006 名古屋市南区鳥栖2-6-17
桜本町CH101

近藤 記巳子

TEL / FAX 052-822-7460

E-mail : konkimi@nifty.com

- 愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局
〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 石原 義則

TEL / FAX 052-711-3087 E-mail : noriyoshibob@yahoo.co.jp

- Web Page : <http://naichi.net/>